

頭部が鮮やかな緑色のマガモ

いとりのどりのカモ



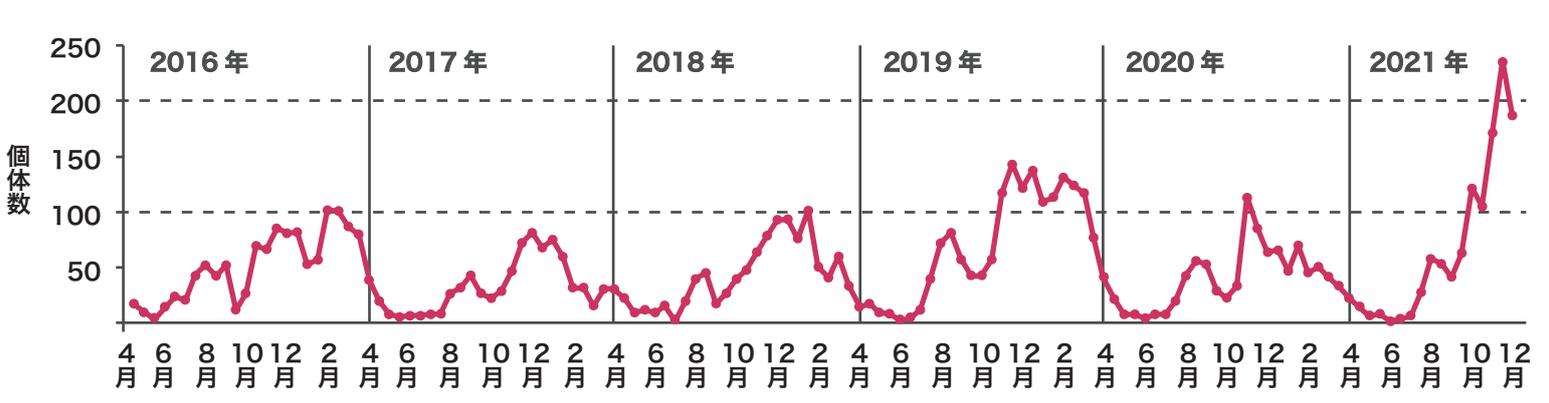
井の頭池では月2回、水鳥のモニタリングを行い、カモ類の種類と羽数を記録している。今期、池で越冬しているカモ類は昨冬よりも多い百数十羽。11月の調査では236羽を数えた。2016年から行っているモニタリングで、カモ類の数が初めて200羽を超えている。



以前はさらに多かったことも

今期は井の頭池のカモ類が多いが、かつて、今よりも多くのカモ類が越冬していた時代がある。1970年代後半から、来園者が撒くポップコーンやパンを目当てにオナガガモを中心とする多くのカモ類が集まるようになり、その数は1000羽を超えていた。しかし、餌やりは野生のカモ類の生態に影響をおよぼす。東京都と地域団体が2007年に餌やり防止の呼びかけを開始したところ、このルールが来園者に受け容れられ、カモ類の数は自然の食物で生息できる羽数に落ち着いた。

実は、東京都内で越冬するカモ類は、1980年代から減少し続けている（環境省「ガンカモ類の生息調査」）。広域的な減少傾向の中で、餌やりが行われなくなったことも相まって、井の頭池のカモ類は2010年代には百羽未満になったこともある。



図・水鳥モニタリングによる井の頭池のカモ類の個体数推移 (2016年から2021年, 井の頭かいぼり隊)

いけいけ！かいぼり隊

～コカナダモを一網打尽にする、の巻～



水面にツツイトモが広がっていた井の頭池では、8月になると、見えている水草がほぼ、外来種のコカナダモに変わってしまった。

緊急事態宣言が明け、コカナダモ駆除を再開した井の頭かいぼり隊。従来は長い竿で根っこから抜き取っていたが、この方法ではコカナダモの増加スピードに追いつかなくなったので作戦を切り換えた。コカナダモが切れ藻から増殖する特性に注目し、水面に浮いている切れ藻を回収して繁殖を抑制するのだ。

水面に広がっているコカナダモの多くは、根のない切れ藻だ。これを長さ10メートルほどの網で囲い、岸にたぐり寄せて一網打尽にする。大きな網をさばくにはチームプレーが欠かせない。水中の落枝や杭に網が引っかからないように対処しながら、網を徐々に小さく絞って陸に上げる。網がめくれ上がってコカナダモがすり抜けてしまう場面もあったが、練度が上がるにつれ、コカナダモの回収量が増えていった。

秋を過ぎて切れ藻の発生が収束し、今期の駆除作業も終了した。しかし、常緑のコカナダモは今も池底を覆っている。来春はツツイトモの種子が発芽できるだろうか：と気を揉む昨今だ。

増えてきたカモ

2010年代後半からは、カモ類の渡来数にわずかな増加の兆しが見られているようだ。

カモ類を観察していると、水中に首を伸ばして沈水植物（茎や葉が水中にあるタイプの水草）を食いちぎったり、切れ藻をついばんだりしている場面がよく見られる。かいぼり後に池の環境がよくなって沈水植物が復活したことが、カモ類の増加に寄与している可能性がある。

井の頭池に群生している沈水植物は、最近までは在来種のツツイトモが多かったが、今シーズンは外来種のコカナダモに置き換わってしまった。カモ類の食物としては、両種にどのような違いがあるのかは不明だ。しかし、コカナダモが増加すると池底をびっしりと覆い、水草の多様性が失われてしまう。ツツイトモやイノカシラフラスコモ、シヤジクモなどのさまざまな水草が生育する環境を保っていきたい。



水上と陸上で協力して網を曳くのが重要



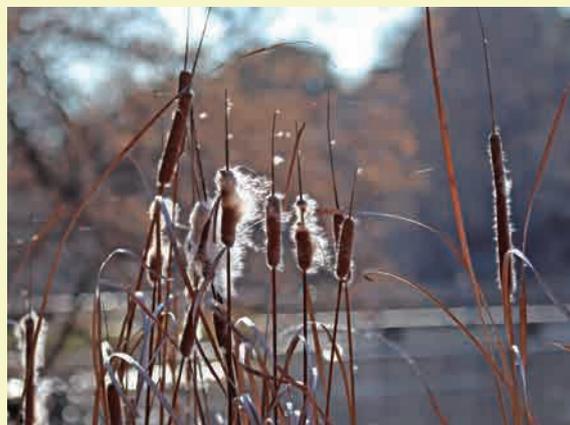
オカヨシガモは落ち着いた色合い



コカナダモを食べているヒドリガモ

今号のイチオシ！

自然情報



ヒメガマ日和

枯れたヒメガマがすっかり乾くと、穂が弾けて綿毛の付いた種子が吹きこぼれます。年の瀬の風の吹いた日に、種子は風まかせで旅立っていきます。

再開しました！ 井の頭池 ちょこっとウォッチング

井の頭池の生きものや、保全の取組を見学するガイドツアーを再開しました。おおむね月1回程度、毎回違うテーマでかいぼり隊がご案内します。開催予定はホームページや園内ポスターでご確認ください。

定員：各回30名（当日先着順、事前申込不要）
 対象：小学生以上（解説は小学校高学年向け）
 持ち物：双眼鏡（あれば）
 ※体調のすぐれない方は参加をお控えください。マスクを着用し、密になる状況の回避にご協力ください。
 ※歩きやすい靴、暖かい服装でお越しください（池には入りません）。
 参加費：1人30円（保険代として）

